

東京都歴史教育者協議会 第43回研究集会

記念講演'中村政則氏 「坂の上の雲」と歴史教育の課題

日時：2010年2月28日(日) 9:30 開場 10:00 開会

午前中：記念講演 / 午後：分科会

会場：桐朋中学高等学校

参加費：会員 〇 学生 500円 一般 700円

J R 中央線 国立駅南口下車徒歩 15 分

J R 南武線 谷保駅北口下車徒歩 15 分

国立・谷保より立川バス利用「桐朋前」下車 5 分

府中・聖蹟桜ヶ丘より京王バス利用「桐朋前」5 分

集会内容

10:00 開会集会

10:15 記念講演：中村政則氏

一橋大学名誉教授。日本近現代史。

近著：『『坂の上の雲』と司馬史観』（岩波書店）

12:20 昼休憩（昼食をご持参下さい）

13:20 分科会（詳しくは裏面に）

小学校・中学校の授業づくり

小杉雅彦氏「初めて歴史を学ぶ6年生に戦国時代をどう教えるか」

滝口正樹氏「平和学習をどう進めるか “ピキニ水爆被災事件 55年とマーシャル諸島の人々”」

歴史研究の成果を授業に

藤木正史氏「高校の授業 テーマ学習・内乱と飢饉の中世(15~17C初)」

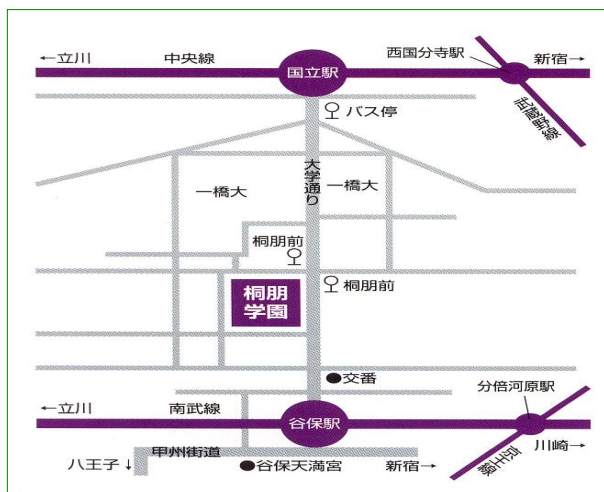
田中暁龍氏「綱吉政権と朝幕関係 - 江戸前期の幕府と朝廷のとらえ方 - 」

教員の学びと授業の工夫

早川和彦氏「持ち込み可の定期試験とそれにむけての授業展開」

楠木 武 氏「みて、きいて、考える - “自由研究講座 世界の中の日本史” の実践から - 」

16:30 閉会集会



東京歴教協とは？ 東京の小学校・中学校・高校・大学・専門学校などの教員、大学生・院生や、歴史に関心のある市民の方などを中心とした研究会です。年1回の研究集会は、講演と分科会を通じ、学問と教育、歴史認識、魅力的な授業づくりなどについて、豊に学びあう場となっています。どうぞご参加ください。

東京都歴史教育者協議会

東京歴教協HP http://www.geocities.jp/tokyo_rekkyo/

連絡先：事務局（富永）

TEL/FAX 042-488-3619

e-mail tokyo_rekkyo@yahoo.co.jp

分科会1 《小学校・中学校の授業づくり》

小杉 雅彦 氏 (啓明学園小) 「初めて歴史を学ぶ6年生に戦国時代をどう教えるか」

6年生に歴史の授業は、「大好き」「大嫌い」の両極端に分かれることが多くあります。例えば私の勤務する学校では、帰国子女が多いことから、日本地図を初めて見る子どもや、漢字が読めない子どももいます。また学力が十分にでないために教科書の音読や地図帳をたどることだけでも大変な子どももいます。どちらかといえば資料を読むのが苦手な子ども達でも、歴史の授業に前向きに取り組むためにはどうしたらいいかを考えました。今回は、天下統一に至る単元を三時間で計画してみました。この実践をもとに、参加者の皆さんで歴史授業の進め方を考え合ってみませんか。～

滝口 正樹 氏 (上板橋三中) 「平和学習をどう進めるか “ピキニ水爆被災事件 55年とマーシャル諸島の人々”」

社会のさまざまな問題と格闘している「人」と出合わせ、「主権者に先立つ人間としての土台を育てる」社会科を進めてきました。今回、中学2年の世界地理の学習の中で、生徒たちがビデオを通じて出会ったのは、第五福竜丸以外の被爆漁船の真実に迫った高知の高校生、第五福竜丸の乗組員の大石又七さん、そしてマーシャル諸島で被爆した島民たち…。核被害者という視点から、中学生は、核兵器・核問題を学んでいきました。広島・長崎の原爆の丁寧な学びを基礎としながら、広島と長崎だけでは終わることなく、平和と人権にかかわる未説明・未解決の核問題を、地域・日本・世界を貫いて学んでいった中学生の学びの記録です。

分科会2 《歴史研究の成果を授業に》

藤木 正史 氏 (東京学芸大学附属国際中等教育学校) 「高校の授業 テーマ学習・内乱と飢饉の中世(15～17C初)」

2学期後半に、15Cから17C初めの200年間を“内乱と飢饉”を大テーマとして中世の終わりから近世を見通す以下の6回の授業を構成しました。室町時代後期の経済(つくられた飢饉(永享3年悪徳米商人事件)etc.)、中世の村(荘園領主の役割(応永27年伏見荘用水争い)etc.)、中世の町(中世人の飢饉への対応(応永27年夏逆菖蒲菖の流行)etc.)、戦国大名(なぜ戦国大名は戦争をしたのか(乱取り・端境期の戦争)etc.)、豊臣の平和(豊臣政権の性格(惣無事令)etc.)、中世の終焉(海外へ向かった日本人の行方(元和7年徳川幕府禁令)etc.)。初任者研修の一環として行ったこの授業を中心とした実践報告になります。中世の戦場と民衆の関係、傭兵や奴隷貿易で結ばれた東アジア世界との関係への視点を通し、生徒たちが時代の転換期を自ら考え理解するように、興味を刺激する文字や絵画の史料を用意しました。授業後の生徒の感想とともに紹介します。

田中 暁龍 氏 (桜美林大学) 「綱吉政権と朝幕関係 - 江戸前期の幕府と朝廷のとらえ方 - 」

江戸時代の朝幕関係についての研究は、1970年代以降の国家史研究によって積極的に取り組まれてきましたが、その成果の一つとして、近世朝廷が幕藩体制下で固有の役割を担う構成要素として存続してきたことが明らかにされてきました。しかし、近世の朝幕関係の時期的な変容を議論する際には、尊王論発達史に代表される、朝幕間の事件や思想を過大に重視して尊王論の発達系列を説く戦前の研究を、いかに克服してくかが大きな課題となっています。本報告では、こうした朝幕間の事件のみに視座をおくのではなく、近世朝廷の法制や制度的な機構の変化に着目し、綱吉政権期における幕府の対朝廷政策を検討してみたいと思います。特に、貞享期に京都所司代に就任した土屋政直の動向に焦点をあて、貞享期の幕府の対朝廷政策の意義を考察することで、綱吉政権と朝幕関係のあり方について再考を試みてみたいと考えています。

分科会3 《教員の学びと授業の工夫》

早川 和彦 氏 (駒沢学園女子中学高等学校) 「持ち込み可の定期試験とそれにむけての授業展開」

2学期最初の授業で「世界史は2学期から定期試験は持ち込み可とします！」と宣言。みなさんだったらどのような授業を展開しますか？暗中模索、試行錯誤の中で多くの示唆を受けたのは、先行実践でした。「授業実践書」の内容をアレンジしながら追加実践し、曲りなりにも「持ち込み可の定期試験」を実施しました。分科会では、09年12月に実施した期末試験の問題、持ち込んで良い授業プリント・資料をつかって2学期後半の授業展開を報告します。授業で使ったプリント10枚以上、ワードファイルで差し上げます。当日、USB接続の記憶媒体をご持参くださればコピーいたします。授業の手の内は100%明かします。ぜひ、データで持ち帰ってもらい、翌日から自分の教室で追加実践して下さい。ただし、この実践はまったくの発展途上であり、それゆえ皆さまから「こうした方がいい、ああした方が面白い」というアドバイスをいただき、私自身の勉強にしていきたいと思っております。

楠木 武 氏 (成城学園中学校高等学校) 「みて、きいて、考える - “自由研究講座 世界の中の日本史”の実践から - 」

高校3年生の自由選択科目である「自由研究講座 世界の中の日本史」の実践報告を行います。映画・音楽鑑賞や現地見学等を窓口として、まずは具体的に「みて、きいて」、そこから日本とアジア・世界との関係についてともに考え、議論する。そういう場となることを目指しました。1学期は、国と国との間で苦闘する生身の人間としての「在日コリアン」を具体的に感じ、そこから改めて日朝・日韓関係史について考えました。2学期は、「沖縄」という視座からアジア・太平洋戦争や日米関係について考えました。今回は在日コリアンに関する内容を中心に報告します。この授業は、私自身が「授業で在日コリアンをどう扱えばいいのか」迷った末に行った自分のための「実験」という側面もあります。いろいろな方のご意見をいただければ幸いです。